

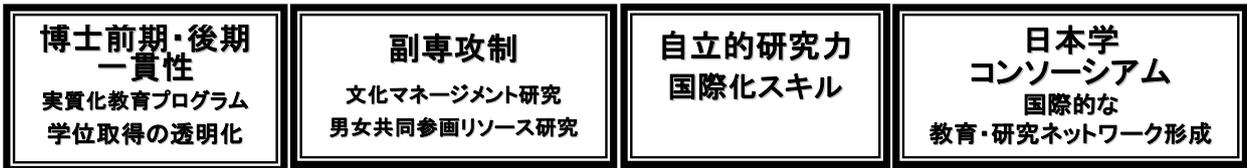
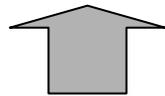
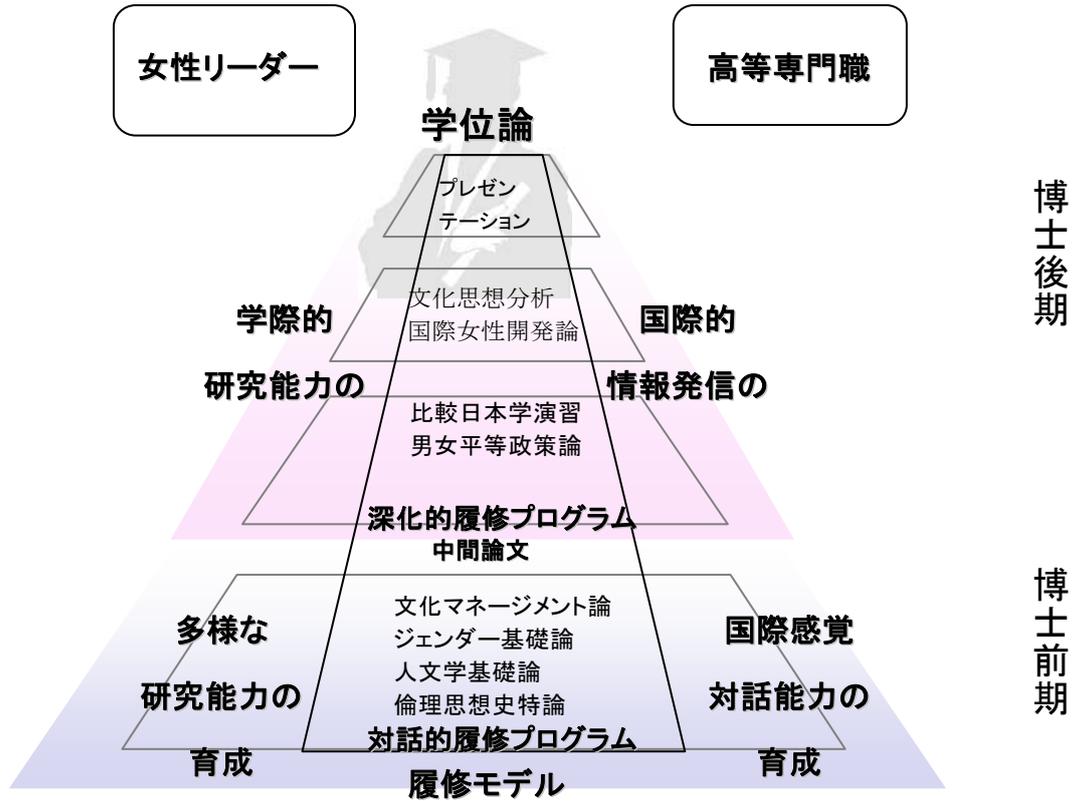
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	a007
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) その他人文系分野を主とする複合分野		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (比較思想史、比較歴史学、比較文学、ジェンダー、芸術諸学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名	
	人間文化研究科・国際日本学専攻〔博士後期課程〕・人文学専攻〔博士前期課程〕	平野 由紀子	
	(その他関連する研究科・専攻名) 人間文化研究科・比較社会文化学専攻〔博士後期課程〕、ジェンダー学際研究専攻〔博士後期課程〕、 言語文化専攻〔博士前期課程〕・発達社会科学専攻〔博士前期課程〕		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は、指導的女性、女性研究者育成のために積極的施策を展開している。すなわち、(1) 女性研究者・女性のリーダー育成のための体制整備、(2) 特別奨学金制度、女性研究者の職業生活と家庭生活の両立支援制度などの支援体制の整備、(3) COEを含む研究拠点の構築と支援、(4) 地域再生への貢献・産学官連携、(5) 国際化・国際交流・国際協力の推進、である。</p> <p>とくに本学の大学院は、創設当初から社会的ニーズを視野に入れた教育と研究を志向し、学際性と国際性を備えた女性研究者育成の実績をあげてきた。今回の取り組みでは、女性のライフコースに適合した教育プログラムを開発し実施する。具体的には、博士前期・後期課程を有機的に連携させた教育課程の編成、社会的要請に対応しうる知見を大学院修了時までには獲得できるようなカリキュラムを策定すること、の二点である。</p> <p>本プログラムは、国費で措置される女子大学として本学大学院が果たすべき役割の根幹に位置するものであり、その実施がわが国の研究者の国際的学問水準の向上と国際的貢献とを大いに促進するものと考えている。</p>			

機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	a007
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>国際日本学と比較社会文化学専攻および比較日本学研究センターでは、毎年、外国人報告者を含む国際シンポジウム、招聘教授による国際講演会を開催するとともに、専任外国人教員の採用により、先端の国際的研究への接触・発表の場を、大学院生に日常的に提供してきた。また世界各地の日本学研究の中核大学との交流を戦略的に拡大し、交流協定に基づく研究留学生の積極的受け入れ、本学教員による集中講義を実施し、共同教育への地盤を固めてきた。また、ジェンダー学際研究専攻は、ジェンダー研究のCOEの中核を担って国内外の若手研究者の教育に寄与し、博士前期課程開発・ジェンダー論コースでは開発途上国支援の教育プログラムの実績を蓄積してきた。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>本事業の目的は、深く広い学際的な知見を有し(深化)、相互理解に基づく研究協力・成果交換を推進して(対話)、グローバルな視野を備えた次世代女性リーダーとなる若手研究者および各方面の知的専門家を育成・輩出することである。とくに本事業が焦点化するのは、本学2専攻の資源としてすでに有している広範囲の領域(思想・歴史・倫理・宗教・文学・文化・音楽・服飾など)を横断し、新しい国際的な文化基軸を「国際日本学」として、アジアから発信することである。むろん本学がこれまで蓄積してきたジェンダー研究・教育をそれに有機的に連動させ、真に男女平等・男女共同参画の国際社会の実現にむけて、有為な若手リーダーを育て新しい形の国際協力・文化交流の実現を担うものとする。</p> <p>そのための具体的方策として、(1) 博士論文の早期完成を最重要と考え必要な措置を講じる。そこで、(2) とくに人文系の研究のレベルアップと、その教育機会の国際化、研究活動の場の国際的な拡大を図る。(3) そのために「国際日本学」をアジアにおける教育・研究拠点として、国際的な文化基軸を発信する若手リーダーを育成する。(4) 副専攻制度を施行し、多様性を価値とする未来の研究動向を先導すべく教育を徹底する。(5) とくに副専攻科目群として「男女共同参画リソース研究」と「文化マネジメント研究」を設置し、国際的な男女共同参画社会の実現に寄与する人材や日本では未だ博士課程レベルで養成していないキュレーター等の専門家を育成する。(6) 研究力の強化と保証、および将来の教育力の開発のための対策、を実施する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



教育プログラム



機 関 名	お茶の水女子大学	整理番号	a007
<p data-bbox="165 203 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 922 635 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 972 1430 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 972 1430 1146">・「グローバルな視野を備えた次世代女性リーダーの育成」という目的が極めて明確であり、その実現のために、副専攻制の導入や、国際的な教育・研究ネットワーク（日本学コンソーシアム）の形成など、具体的な方策が検討されており、成果が期待できる。また、学長の強力なリーダーシップの下、女性研究者のための大学の支援体制が構築されている点は高く評価できる。 <li data-bbox="165 1167 1353 1196">・人材養成の目的を実現するための教育カリキュラムなどの面で、さらなる工夫が望まれる。 			